

令和4年度千歳市労政審議会 議事録

日 時：令和4年11月14日（月） 14時15分

会 場：千歳市役所 議会棟2階 大会議室

出席者：＜委 員＞井坂委員（会長）、皆木委員（副会長）業天委員、北村委員、
小松委員

＜事務局＞大和産業振興部長、松石産業振興部次長、櫻井商業労働課長、
宮澤労政係長、井浦労政係主任、池原雇用対策推進員

1 議 事

（1）「千歳市における労働行政について（令和4年度）」

松石産業振興部次長の進行により、事務局の紹介を行った後、井坂会長に進行を交代し、審議を行った。

続いて、事務局・櫻井商業労働課長から議事（千歳市における労働行政について）に沿って、令和4年度における実施事業の説明及び報告等を行い、質疑応答を行なったが、質問・意見等はなかったことから、議案の内容については報告済みと決定した。

（2）「地元就職と人材確保の促進について」

地元就職や人手不足の解消に対する支援について、それぞれの委員の立場から市内の実情やニーズに関するご意見やご所見について発言していただいた。内容については次のとおり。

（A委員）

雇用・失業情勢について、現在各ハローワークが公表している8月分の有効求人倍率で、千歳は0.98であり若干1に届かない状況である。

夕張の有効求人倍率は1.86となり、なぜ1倍を大きく超えるような現象が起きているかということ、過疎地域で起きる現象で、建設業、介護・福祉など仕事はあるが働き手がいないので数字が高くなっている。

札幌圏は0.95となっており、千歳（0.98）とほぼ同じ状況である。これは、仕事を探している人が他の地域より多いことを示している。

では求人は1人に対して約1人ある状況でなぜ埋まらないかということ、さまざまミスマッチが起きているからである。働きたいという考えを持つ人の条件と、働いてほしいと考えている企業の条件が合わないなどが起きている。

また、新規求職申込件数は501人となっており令和4年8月に仕事を探しにきた人数を示している。月間有効求職者数は2,457名で以前から仕事を探している人数を示している。新規求人数は令和4年8月で774名、月間有効求人数は2,412名となっている。昨年8月と比べると、新規求人数676名に対して774名の14.5%

増となっており、月間有効求人数も1,861名に対して2,412名で29.6%増と求人数はコロナ禍でも戻ってきていることがわかる。ただ、コロナ前の令和元年と比べると1割程度足りない状況となっている。そして、月間有効求職者数が新規求職申込件数の5倍程度あるが、なかなか就職できない人がいることになる。理由としては、コロナで働くことに躊躇する人や雇用保険の受給が手厚くなっていること、他の支援の給付を受けている人もいるなどが考えられる。

最後に、産業別の求人数についてだが、昨年8月に比べて建設業、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉などが戻ってきている。ただ、建設業や医療・福祉はずっと人手不足が続いており、希望する人が少ない現状であることから、ミスマッチがあると分析できるので、就職に結びつかないのはそういったところにあるのではないかと思っている。

(B委員)

連合北海道千歳地区連合でのことだが、労働相談が以前に比べ少なくなっている。特別に日にちを設けて行うこともあるのだが、1件から2件しかない。宣伝が足りないかもしれないが、いつでも受け入れる体制であるにも関わらず相談がない状態である。

(事務局)

労働相談とは、働きたいとか就職に関する相談なのか。

(B委員)

多岐にわたって受け付けているので、どんなことでも相談可能である。アドバイスから紹介場所の提供、悩みなども受け付けている。

(事務局)

もしかしたらそういう相談場所があることを知らない人がいるであるとか、相談する勇気を持ってない人もいるのかもしれない。

(B委員)

連合北海道のホームページを開いていただくと、労働相談について掲載しているので、来られなくても電話での受付もしている。もしかしたら、相談がないことは良いことかもしれない。

(C委員)

テーマとは少し趣旨が逸れるが、労働者からの相談はもちろんだが、雇用主からの相談もできる窓口があればと思っている。実際に、労働者から休暇取得に関

する問い合わせがあり、労働基準監督署に相談したところ基本に沿った内容しか対応してもらえなかった。難しいと思うが、労使間でのトラブルに関して雇用主からも個別案件ごとに相談できる窓口があればと思う。

(D委員)

社労士をつけていない企業もたくさんあるのが実情である。千歳商工会議所では、「労働相談の日」を設けており、今はコロナ禍なので事前に予約をすればオンライン形式で対応してくれるはずである。千歳商工会議所が窓口となり労働基準監督署に直接繋いでくれるので活用いただきたい。

(C委員)

また、人材確保という観点では、若年者の早期離職について苦慮している。就職説明会などは、求職者の立場に寄り添い、どちらかという求職者優位な運営をしているが、企業側の採用活動にも考慮した運営の仕方をしてほしい。良い人材を確保するためには、どのような採用基準を設けるべきかなど企業側の採用に関するポイントがあれば教えてほしい。

- 2 全体における質問・意見等について
特に発言等なし。

- 3 閉 会